

## ◆状況報告◆

学校所有も含め 15 台の iPad を活発に活用しています。学習内容はもとより、肢体不自由のある児童生徒の姿勢や操作性に合わせて、斜面台や滑り止めシート、自作の専用アームなども工夫しています。4 月には職員研修を実施し、8 月には公開研修会を開催、本校（肢体不自由教育）における、準ずる教育課程の教科指導から訪問教育（自立活動を主とする教育課程）での指導まで、各学部・各教育課程に応じた iPad の活用実践を 6 つ報告したほか、参加者に iPad を体験してもらうなど好評を得ました。活用状況・成果について年度末に改めてまとめます。

## ◆取り組みの様子・写真◆

### ①自立活動を主とした教育課程における活用



小学部の事例です。SRC ウォーカーにユニバーサルアーム台を取り付け、児童の正面に iPad を提示できるようにしました。画面にタップすると、赤ちゃんの笑い声、英語、効果音などの音に合わせて、シンプルでカラフルな図形が次々に現れる

「Baby Tap HD」アプリを使用しました。他のアプリと比較し、画面のどこをタップしてもアプリが閉じてしまうことがない点

が、児童のモチベーションをキープしやすくしています。この授業では、SRC ウォーカーへの乗車意欲を引き出す（→身体を起こし、胸で体重を受ける経験の拡大）こと、ヘッドコントロールする力の獲得（→頭を起こして物を見る力の育成）、眼球運動の活性化（→注視・追視力の向上）、上肢の主体的な動きの誘発（→外の世界へかかわろうとする力の育成）などをねらいました。活動を繰り返す中で、次第に児童は SRC ウォーカー乗車へも意欲的になってきました。理由には、使用したアプリが効果的だったことが 1 つあげられます。使用したアプリは、画面がカラフルに変化し、いろいろな音声が鳴ることで、見る力や集中力が高まっているように思います。また、児童のわずかな力でもタップすれば簡単に変化するという点で、児童の自主的な手の動きも活発にしやすいのだと思います。いつも頭が落ちてしまいがちな児童が、頭を継続して起こし画面を見ようとするようになりました。

「Baby Tap HD」アプリを使用しました。他のアプリと比較し、画面のどこをタップしてもアプリが閉じてしまうことがない点が、児童のモチベーションをキープしやすくしています。この授業では、SRC ウォーカーへの乗車意欲を引き出す（→身体を起こし、胸で体重を受ける経験の拡大）こと、ヘッドコントロールする力の獲得（→頭を起こして物を見る力の育成）、眼球運動の活性化（→注視・追視力の向上）、上肢の主体的な動きの誘発（→外の世界へかかわろうとする力の育成）などをねらいました。活動を繰り返す中で、次第に児童は SRC ウォーカー乗車へも意欲的になってきました。理由には、使用したアプリが効果的だったことが 1 つあげられます。使用したアプリは、画面がカラフルに変化し、いろいろな音声が鳴ることで、見る力や集中力が高まっているように思います。また、児童のわずかな力でもタップすれば簡単に変化するという点で、児童の自主的な手の動きも活発にしやすいのだと思います。いつも頭が落ちてしまいがちな児童が、頭を継続して起こし画面を見ようとするようになりました。

### ②訪問教育における活用

中学部の事例です。ピアノの鍵盤にタッチして音を鳴らしたり、「音でぬりえ」など画面にタッチすると音がして画面が変化するアプリを活用しました。また、学校生活の様子の写真や動画を保存し、再生しました。この授業では、学習に意欲を持たせ、苦手な方向の側臥位への体位変換を楽に行なったり、対象物を注視する、上肢を動かし主体的に活動することなどをねらいました。それまで利用していた友だちの写真カードの提示に比べて、iPad での動画提示により、注視の時間が長くなりました。





手を出して顔をなでたりする場面もみられました。また、友達が学校で学習している様子の動画をよく見て、学習にスムーズに入れるようになりました。このように画面をよく見ることは、座位保持装置に安定して座るなど姿勢改善にもつながっています。苦手な側臥位も、斜面台に立てかけた iPad を見ることで受け入れやすくなり取り組んでいるところです。主体性についても、通常であれば、創作の場面では上肢介助の支援を受け入れますが、ピアノを弾く場面では、支援の手を振り払い、一人で弾きたがり、主体的な活動につ

ながりました。

### ③知的障害特別支援学校の教科代替の教育課程における活用

中学部の事例です。iPad のインターネットツールを活用して、総合的な学習の時間で調べ学習を行いました。対象生徒は、ひらがな・カタカナを習得しています。手の動く範囲に制限があるので、デスクトップ型パソコンのキーボードを使用する際には両手で操作しなければいけない場面もあり、教員に支援を依頼しなければならない事もありました。そこで、iPad のかな入力用のキーボードを使用し、一人でキーボード操作をしてインターネット検索することをねらいました。iPad のキーボードは、あ・か・さ・た・など、行ごとにならんでおり、通常のキーボードに比べて文字が探しやすい様子です。また、手が届きにくい文字や、間違っただち込んだ際の Delete キーなどは、iPad を回転させて、指が届くように自分で工夫するなどして入力することができました。



### ④高等学校に準ずる教育課程における活用

高等部の事例です。理科（化学 I 選択）において、「元素図鑑」アプリを活用したり、気象庁のホームページを活用した授業に取り組みました。元素（化学物質、周期表、科学的法則など）を身近に感じることや、科学的情報（天気図、衛星画像など）を通し、科学的な見方、考え方を経験することをねらいとして、教科書等にでてきた元素について映像資料、どんな物に使われているかなど調べました。また、天気図、気象衛星画像、天気予報など調べました。こうしたアプリの活用やホームページでの検索も、iPad の活用により、場所をとらないため、個人や集団での活動の中で、1つの道具として使うことができます。車いすを利用する生徒が多いため、パソコン教室で、1つのディスプレイをみんなで見ることなど難しかったことが、iPad により、教室の机上で、グループで囲んで話し合うことなどもできました。また個人では、ふでばこのように常に



そこにあることで、疑問に思った事柄をすぐに調べることができます。説明文をまとめたり、見ながら作画したりするなど、主たる活動が場所や位置などで制限されることがなく、自由に取り組むことができました。使用に際して、「元素図鑑」は、表示された画像を指で 360° 回転させたりすることができ、写真では感じられないような、より実物に近い物質を捉えさせることができます。また、ホームページ検索では、押しにくいところは拡大して押すことで押し間違いを減らすことができたり、天気図などは、自分が見たいところを拡大するなど、プリントではできにくかったことができるようになりました。